

運動性回旋融像の測定に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2024年3月21日~2028年12月31日

〔研究課題〕

運動性回旋融像の測定

〔研究目的〕

今回、日常診療や実習で測定したデータを用いて、運動性回旋融像の割合、また健常者と斜視患者さんにおける運動性回旋融像に違いがあるかを明らかにしたいと考えます。回旋融像における運動性回旋融像の割合を明らかにすることで、回旋斜視の手術の可否などの今後の回旋斜視の治療計画に有用であると考えます。

〔研究意義〕

融像とは、左右それぞれの眼に投影された像を脳内で1つに融合させる両眼視機能です。融像には、水平・上下・回旋の融像があり、それぞれに運動性融像と感覚性融像があります。回旋融像のほとんどは感覚性融像であると知られています。回旋融像の感覚性融像の検討は過去にも多く行われてきましたが、運動性融像を測定した報告は少なく、以前に運動性融像を測定する際に使用していた眼底を直接観察しながら回旋融像を測定可能なFundus Haploscopeは、現在は使用されていないため、回旋融像の研究は現在ほとんど行われていません。回旋融像域のうち、運動性回旋融像がどのくらいの割合なのかは明らかになっていません。現在両眼視機能検査として広く使用されている大型弱視鏡と前眼部写真を併用し、前眼部写真を解析することで、運動性回旋融像の測定は可能であると考えています。

〔対象・研究方法〕

- ①帝京大学医学部附属病院眼科外来職員(2022年1月から2023年3月末日まで勤務)
 - ②帝京大学医療技術学部視能矯正学科学生さん(2022年3月から2023年3月末日までに外来実習参加)
 - ③帝京大学医学部附属病院眼科外来の斜視外来を受診した患者さん(2020年1月から2023年3月末日までに受診)
- ①の職員、②の学生さんにおいては、20歳以上40歳未満、屈折異常 ±3.00D 未満、乱視 ±1.00D 以内である者を解析対象とする。③の患者さんにおいては、20歳以上80歳未満、屈折異常 ±3.00D 未満、乱視 ±1.00D 以内を対象とします。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院 眼科外来

〔個人情報の取り扱い〕

年齢、性別、検査結果のみとし、すべて個人情報等を加工し処理します。研究責任者は研究終了後、保管対象の記録類一式を封緘に詰め、倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにおいて、10年間保管の後に廃棄します。学会発表並びに学術論文として発表する際には、データを全て集計値とし、個人情報が公表されることはありません。

対象となる患者さん、学生さん、職員で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 李 安珠 視能訓練士
研究分担者: 佐々木 梢 視能訓練士
所属: 帝京大学医学部附属病院 眼科
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1
TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 30327]